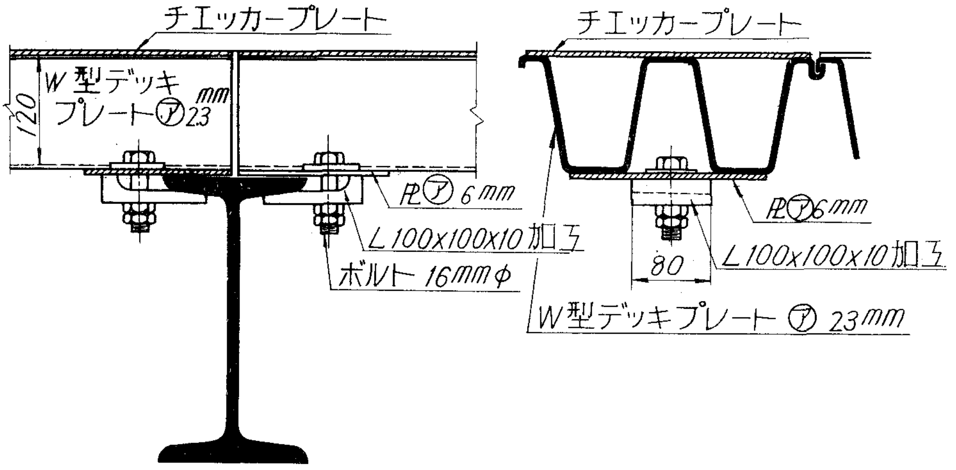
IV―29 軽量型鋼使用の路面覆工桁について

大阪市土木局道路部 正員 八木 健二
〃 〃 中津 允秀
〃 〃 工修○橋本 固

1 まえがき

目下，大阪市においては，大阪駅前の交通緩和対策の一環として，阪急阪神前附近に總面積17,000㎡におよぶ大規模な店舗併設の地下道を建設し，横断歩行者の大多数をこれに吸收するため，梅田地下道建設工事を施工中である。本工事現場は大阪の表玄関を中心とし，二級国道福知山大阪線その他五路線にわたる放射状の道路につながるものであり，そのふくそう度は大阪で一，二を争う場所である。ゆえに工事中一時的といえども，車線を占有し，交通をとめたり，滞帯させたりすることは許されない。したがってオープンカットアンドカバー工法で行う地下構造物工事の場合には耐久力，安全性，施工の容易性の立場からも適切なる路面覆工桁を使用することが現場当事者として望ましいことである。従来，路面覆工桁として一般に木桁が使用されてきたが，腐食に対する安全管理，都心部における取り替え作業の困難性，木桁の乾燥収縮によるガタのための騒音，大輪荷重に対する耐久性等の要因において木桁に優る性質の材料が望まれる。これに対し，本市においては種々考案した結果八幡エコンスチールKKのW型デッキプレートを主体としてこれを補強することにより新しいタイプの路面覆工桁を作り，現場に使用している。本報告はその力学的耐荷性ならびに実用性実験結果について述べる。

断面形状 および 取付詳細 1/5